

届ける・つながる

未来の女性たちに思いを

今を生きているあなたが

# WANへの遺贈は、 そのための選択肢の一つです

認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) は、  
多様なフェミニズム実践とジェンダー研究の情報を発信・集積し、  
ジェンダー平等を求める人々に交流の場を提供します。

志をともにする女性たちが出資し合い、インターネット上で運営してきたのが、  
**フェミニズムを伝える・学ぶ・つながるサイト** (<https://wan.or.jp/>) です。

サイトは誰でも無料で閲覧・利用ができますが、サイトの運営資金は  
認定NPO法人の会員たちが支払った会費やさまざまな方からの寄付で賄われています。

その額は、年間数百万円に上りますが、  
残念なことに私たちは、安定した財源に恵まれているわけではありません。

WANの活動を末永く持続可能なものにして、未来を生きる女性たちに、  
今を生きる女性たちの思いを届けることに賛同して下さるならば、  
あなたが築いた財産の一部を「遺贈」というかたちで  
WANに託していただけないでしょうか？



認定NPO法人  
ウィメンズアクションネットワーク

日本で初めての女の本の専門店、松香堂書店を中西豊子さんが京都でオープンしたのは、1982年。この時から「ウイメンズブックス」を発行して、フェミニストブックの情報や、女性グループが出していたミニコミ誌を紹介してきました。

その後Webの世界では、すぐにさまざまな情報が氾濫していきましたが、女の情報発信はいかにも少ない状況でした。女の本の情報を含めた、さまざまな女性情報をwebサイトで発信していくために、ポータルサイトとしてのWANが誕生しました。

WANを立ち上げたのは、女性の情報が少ないからです。いろんなことが女性差別から起こっているのに、そんな問題を論じたものはほんとうに少ない。私たちが遠慮していたら女性は必要な情報の貧者になってしまう。

サイト運営の主体として、特定非営利活動法人ウイメンズアクションネットワークが正式に認定されたのは2009年5月19日。多くの方々の物心両面にわたるサポートに支えられての出発でした。

フェミニズムが伝わらない、伝わりにくいと言われていた今、世代を超えてウイメンズブックストアは受け継いで欲しいという思いは大きかった。NPO法人にして続けることなども含めて、フェミニズムの運動と女の本屋の仕事をドッキングさせ、二十年間続けてきたこの店は、どんな形でも誰かにしっかり受け継いで貰いたかった。

WANサイトでは「フェミニズム入門塾」を開講。2025年3月段階で第3期まで続き、修了生は自ら「アドバンスコース」を立ち上げ、学びを進化させています。フェミニズムを学ぶ彼女たちは、WAN女性学研究所の担い手として期待を集めています。

私はWANを女性のための大きなツールに育てたい。女性の仕事にもつながればと夢は大きくもっています。



松香堂書店を立ち上げた中西豊子さん=店内で



松香堂書店は女性たちの活動の場でもあった

始まりは京都にあった

女の本屋「松香堂書店」

女性たちはいつも、

先輩女性たちのことばに出会って

励まされ、勇気づけられて、

自分の人生を歩んできました

女性と政治

SOGIE

フェミニズム

ケア社会

### イベントの主催・共催

全国の女性たちのイベント情報が  
カレンダーに  
WAN主催・共催の各種シンポジウムは  
アーカイブ動画を公開しています

WANサイトには、  
女たちの思いがぎっしり詰まった  
受けとめてほしいコンテンツが  
たくさんあります

SRHR

ジェンダー平等

ハラスメント

賃金格差

### ミニコミ図書館

女たちが各地でしてきた活動を  
「なかったこと」にしてはならない  
時の流れの中に埋もれさせたくない歩みがここに



### 女の本屋

出会いたかった本  
うまく言葉にできなかったことが  
明快な言葉で表されている時  
視界がパーッと開けたように感じます

### 女性学研究所

1970年代リブの黎明期、男たちは  
「女の運動には理論がない」と揶揄しました  
女性たちは半世紀以上をかけて  
フェミニズムの理論構築を多角的に進め  
ジェンダー研究は次々に新しく  
刺激的な視点を提供するようになっていきます

これは七十年代のリブの女たちから、  
九十年代に生きようとする女たちへの  
贈り物である。あなたたちが悩むとき、  
あなたたちが行く手に立ちはだかる壁  
を越えられないと思うとき、あなたた  
ちが孤独を感じる時、きっとこの本  
が力になってくれる。わたしにとってリ  
ブが大いなる力づけであったように、  
いま自分の解放をめざして生きよう  
とする女たちにも、この本は大いなる力  
づけになるにちがいない。ここには自  
分を偽らないで生きようとした女たち  
の、ありのままの姿があるから。

『日本ウーマン・リブ史』(1995年、松香堂書店)  
三木草子「はじめに」より



### 「思いは手渡されるために、ある」

(『女の本屋の物語』の解説タイトルから)

わたしには子どもがいません。兄弟や甥姪はいますが、彼らは彼らで社会生活を送っており、わたしの遺産を当てにするような人たちではありません。

40代から遺言状を書いてきました。自筆遺言書がいちばんかんたん、ということもわかりました。

恩送り、ということばがあります。わたしのこれまでを支えてくれた人たちのように、これから育つひとたちのこれからを支えたい。とりわけ女性たちの活動を支えたいと思ったからです。

思いも積もれば山を動かします。どんな小さな灯でも、あなたの灯が後に続く女のひとたちの足元を照らしますように。

## WANへ遺贈をするには 遺言書を作成することが必要です

遺言書の作成について、詳しい情報が欲しい方は下記メールでご連絡ください。WANから案内を送付させていただきます。

連絡先メールアドレス | [wanrij16@wan.or.jp](mailto:wanrij16@wan.or.jp)